DOSHISHA
CLOSE UP

同志社小学校が４月に開校

―充実した教員体制や魅力あふれる校舎

開校まで残すところあと少しとなり、開校準備も最終段階を迎えました。いよいよ4月からは岩倉校地に子どもたちのにぎやかな声が響き渡ります。

21人の教員体制でスタート

小学校教育において「先生」は、「子ども」とならんで最も重要な要素であり、教え方の技術（テクニック）以上に、先生がどれだけ子どもたちと真正面から向き合う存在であるか、ということが大切であると考えています。

同志社小学校では、昨年度および今年度に公募による教員採用を行い、その結果、公立小学校や私立小学校、また海外の小学校で教職経験を持つなど、多彩で熱意あふれる先生方を多数採用することができました。これにより、4月の開校時には校長を含め21名の教員体制でスタートします。

これに対し開校初年度の児童数は1年生90人、2・3年生各60人の合計２１０人。子どもたちと真正面から向き合い、すべての子どもに目が行き届く、きめ細やかな教育が可能となります。

一人ひとりをじっくり丁寧に見る入学考査

同志社小学校の「子ども一人ひとりに真正面から向き合う」という考え方は、入学考査にも表れています。

10月の新1年生、1月の新2、3年生の各入学考査では、昼食をはさみほぼ1日かけて子どもたちをじっくり、丁寧に見る考査を行いました。これにより、学力テストといった一面的な判断ではなく、ひとりの子どもをいろいろな面から多面的に見、判断することが可能となり、実際に受験した子どもたちからは、長時間の考査ながらも「楽しかった」、「おもしろかった」、「また受けたい」という感想も聞くことができました。

魅力あふれる校舎の完成

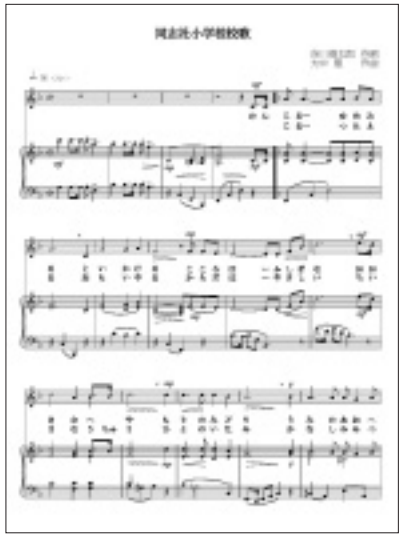
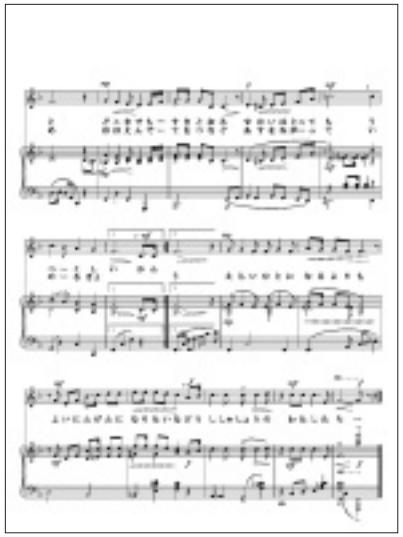
ＯＮＥ　ＲＯＯＭ　ＳＣＨＯＯＬというコンセプトのもと、全ての施設が１つの建物に集約された、斬新な空間設計で夢のある校舎が完成し、１月25日に竣工式も執り行われました。

２階建て校舎の中心に配置されたウッドデッキ張りのチャペルコート（中庭）には、クリスマスイルミネーションも可能なシンボルツリーと、時を告げるカリヨンベル（カレッジソングや賛美歌の演奏も可能）が設置されています。また、チャペルコートに面し2階に配置されたチャペルは、白を基調としたシンプルなデザインで、大きく取られたガラス面や天井のステンドグラスからは柔らかな光が差し込む、荘厳で格調高い空間となっています。その他、学年によって異なるデザインの普通教室、多様な学習形態に対応可能な教室前のオープンスペース、各所に設けられたデンとよばれる小空間、黄色の曲面壁や赤、青、黄と配色された階段室、屋上に設置された天然芝張りの緑の丘、床のガラス窓から覗くことのできる竪穴式住居の遺跡など、随所に特徴を散りばめた魅力あふれる校舎となりました。

ガラスを多用した死角のない見通しの良い空間は、校務センター（教職員室）や校長室にもガラスを多用することで常に大人の目が行き届くようになっています。また、外周フェンスに張り巡らされたセンサーと各所に設置された監視カメラ、校舎内の各所に設置された緊急警報ボタン、管轄の警察署や警備会社への緊急通報設備など、斬新なデザインながらもセキュリティ面にも十分配慮された設計となっています。

その他、太陽光発電パネルの設置、風力および太陽光発電を利用した街路灯の設置、雨水の屋上散水利用、室内灯の昼光センサー対応など環境面にも配慮されています。

チャペルコートより校舎を望む

完成した校歌

現代を代表する詩人である谷川俊太郎先生の作詞、童謡「サッちゃん」「いぬのおまわりさん」などの作曲で高名な大中恩先生の作曲による校歌が完成しました。開校後は、谷川先生や大中先生に小学校にお越しいただき、この校歌に込められた思いを子どもたちに語っていただくことも検討しています。